

浜野・本行寺のお葬式

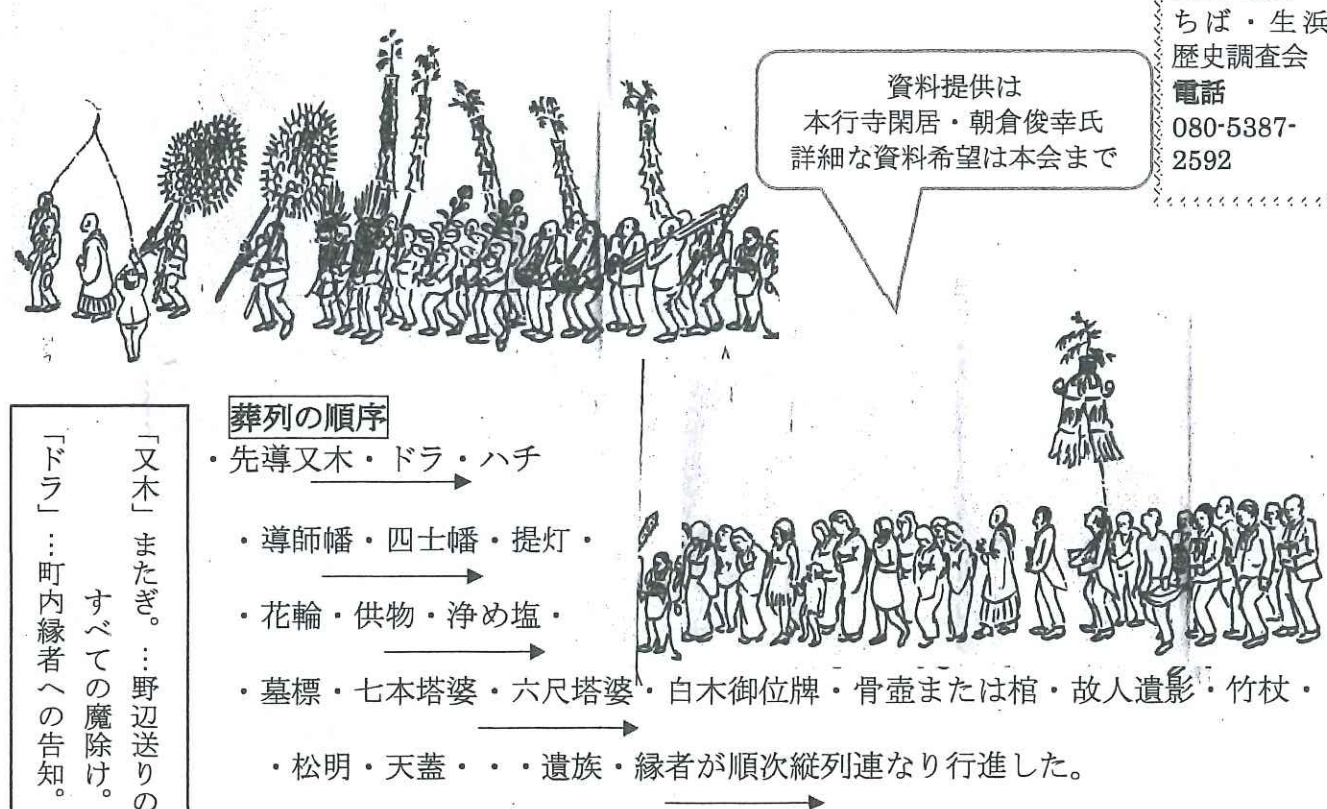
通称『ジャン・ボン』葬列と葬祭飾り

本行寺では戦後6年間無住職の時期を経て、第四十世 朝倉俊夫上人が昭和26年住職として着任以来、伝統の葬列慣習を復活した。

生浜町周辺集落では、戦前・戦後一戸の家人に死亡者が発生した時、通夜葬儀の式場を「自宅葬」で営んでいた。地域各寺の境内墓地・共同墓地・自宅墓地等々に埋葬される折「棺」を自宅から墓地まで移送する際に葬送の行列(野辺送り)をする伝統習慣であった。

その折、町内道路を練り歩き各角を曲がるたびに、ドラ(銅鑼)とハチ(鉢)を打ち鳴らして葬列進行の合図と、道中障(さわ)り除(よ)けを配慮した。同時にそのドラ・ハチの音を聞いた町内住民は「門送り」と称して各家の軒筋に立ち、合掌礼拝し故人の死を悼み今生最後の別離の儀礼とした。

- … 昭和38年「生遺体」埋葬全面廃止が決定され「火葬」となる。…
- … 昭和53年第四一世朝倉俊幸上人となり、従前の「自宅葬」を改め「菩提寺葬」に変更した。 <「泰師堂」を解放>
- … 「自宅葬」当時のその行列の様子を示すと下図のようになります…



【浜野町の習慣では住職を真ん中に前団を女性親族、後団を男性親族が並ぶ伝統であった】

★葬儀執行の意義と目的は、故人との惜別の情を深め、遺族縁者の悲嘆を分かち合い癒しの作業に努め、同時に尊き縁の再確認・人徳・業績・願望等の継承を誓願する大切な修養の時と場である。★現代社会は「孤独死」に象徴されるように、地域・社会の疎遠化が進み、人の孤立が大きな課題となっている。★昨今「終活」提唱されるも、その対応は「死」後の段取りや形式の縮小等々の極めて物理的な点に偏重している。核家族化の拡大と、地域相互の共助支援関係が後退し、遺族の孤立化、そして遺族の悲嘆の感情は癒される事なく独りで抱え込まざるを得なくなっている。★臨終の際に立ち会った時に心がけるべき事は、遺族の悲しみの声を傾聴し、寄り添い、共にそばに居る事に心を配ることが大切である。

多死社会…高齢化が進むに伴い死亡者が急増し人口が減少していく社会をいう。

活動報告 本会は今、「民具」の『図録』を作成中です。

現在保有する「民具」は延べにして800点ほどであります。ほぼ浜野町の所有物であります。それを本会が保存管理を任せております。そこで旧生浜町役場にその一部を展示公開しております。

本会の目的のひとつが「このまちを愛する事」であり、そのお手伝いとしても民具の図録化を計画致しました。

1点ずつ写真を撮り、採寸して使用年代やその扱い方についてもわかる範囲でパソコンのデータにしています。冊子化も考えています。

現在これらの作業に人手が足りません。

興味関心があり、お時間の許す限りで結構ですのでお手伝いをしていただける方を募っております。

「見て、聞いて、触って知ること」

我々は親は選べない。我々は生まれる所も選べない。
親を見て育つ、先人の教えを学んで成長する。
昔(過去)を知り、現在を体験して、将来を予測する。

我々は生き方は選べる。住むところも選べる。
職業で生き方は変わる、住む場所でも生き方は変わる。
住んでいるこのまちを知ることは毎日の暮らしに役立つ。

その昔、ここが、どんなところだったのか?
なぜここに、これがあるのか? あったのか?
なぜこういう習慣があるのか? あったのか?

この場所(生浜)の昔を知ってほしい。
そして自分の故郷はここ(生浜)だと宣言してほしい。

旧町役場で、「見て、聞いて、触って」ください。

本会理事長・白井孝

「民具」と「有形民俗資料」

●民具は、美術工芸品とは違い、同一種類のものを一定地域・あるいは全国的に収集・調査することで初めてその意味・価値が発揮される。

●民具を体系的に展示・公開して、その地域の人々(民族)の基礎文化の姿や推移・変遷あるいは地方文化の特色を知ることが出来る。

●そしてそれらは教育に、研究に、また観光に、親善に大きな使命を果たしつつあるものです。…柏書房(株)「民具資料調査整理の実務」1975年…

●尚、学術的には「民具」と「有形民俗資料」は同義語と解釈されてよいとのことですが、冒頭部分を要約しました。―

会 員 募 集

- ①「地域の史料や民俗資料の保存と活用」
- ②「地域への関心と誇りと愛を持つ、そして次世代へ伝承する」
- ③「身近な文化財史料をテーマにできる活動をする」。

<ご連絡先>

〒260-0824 千葉市中央区浜野町1290-3
電話(火・木・土 9:30~16:00 のみ)043-265-8816 携帯080-5387-2592

私たちの活動に興味関心のある方はお知らせください。一緒に活動してみませんか。

私たちは左記の趣旨を踏まえて次の目的を掲げています。

『仲間作り・街づくり・未来作りの推進、学術・文化振興に寄与する』

賛助会員募集

私たちは事業の推進にあたり会費・寄付金をもとに活動していきます。

つきましては「賛助会員」を設けて寄付金を募集しています。

・賛助会員年会費は、1口1000円の3口(3000円)以上です。この浄財は主に民俗資料の保存・修理・収納の基金および「まちづくり」のために使用します。・賛助会員の皆様には「地域誌」年4回発行をお届けします。本会の企画行事・講座等のご案内をします。本会発行のカレンダーや資料を贈呈します。